

# 令和元年仕事納め式訓示

(本庁・船泊支所)

令和元年 12月30日

ノーベル化学賞を受賞した吉野 彰さんは…

最初から新型電池の開発をめざしたわけでは

ありません 化学反応で爆発するという

危険な目に何度も遭いながら、

それでもあきらめずに研究を続け、

試行錯誤を繰り返して、小型で何度でも充電できる

「リチウムイオン電池」を発明しました

そして、それは、諦めずに、やりぬくことができたから

とおっしゃられています

今日は、令和元年の仕事納めの日であります

今年一年、いろいろな出来事がありました。4月に今上天皇が退位され、30年続いた平成の世が終わりを告げました。

そして、5月1日には、皇太子が新しい天皇に即位され、「令和」という新しい時代が始まりました。

国民の誰もが去り行く「平成」に感謝し、「令和」という新しい元号に、新たな時代の輝く希望を感じたのではないかと考えております。

時を同じくして、礼文島では66年ぶりに、ニシンの<sup>くき</sup>群来がみられ、船泊の湾が真っ白に染まりました。

まさしく、昭和の礼文島の風物詩であった「ニシン」、その「ニシンの<sup>くき</sup>群来」が、偶然にも、平成の世の最後に、夢のように現れたのであります。

「令和」という新しい時代が、何かしら素晴らしい素敵な時代になるような気持ちになった、そんな予感が感じられた今年の春でありました。

そして、秋。ラグビーのワールドカップが日本で開催されました。

「ワンチーム」を合言葉に、日本チームが世界の強豪を次々に倒して、初めてベストエイト入りを果たして、決勝トーナメントに進みました。 残念ながら、優勝国の南アフリカチームに敗れましたが、見事な戦いぶりに多くの国民が感動し感謝の言葉を口にし、12月11日に東京で行われた感謝パレードに多くのファンが詰めかけたのはご承知のとおりであります。

そんなわが国の状況ですが、職員の皆さんにとって今年はどうな年だったのでしょうか？ 今年、礼文町にとって「令和」という新しい時代を、どう生きていくかを決める重要な一年ではなかったかと思えます。そして、職員の皆さんには、新しい「まちづくり総合計画」と「第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略」というふたつのわが町の将来を描く大きな計画の策定に追われた忙しい一年であったと思えます。

そして、私が、5月に宗谷町村会長に就任したことや北海道港湾協会副会長に就いたこともその理由にあげられるでしょうが、今年1年の中で私が出張で役場を不在にした日は136日(去年は125日)ありました。

136 日と云いますと 4 カ月半になるわけでありまして。私たちが勤務する日は、およそ 245 日です。したがって勤務を要する日の半分以上を出張不在したことになるわけですが、私は、その間、武田副町長、岩城教育長を中心に、職員の皆さんには、すべての業務で、しっかりと町政を進めていただいたことに、あらためて、心から感謝を申し上げますところでございます。

今年のが町の漁業水揚げは 32 億 5 千 4 百万円でありました。昨年より減少したと云いまして、32 億円を超える水揚げに、私は心から感謝しているところでございます。

礼文町では 80 歳を超えたお年寄りが現役で、ウニを採り、コンブを獲っているなど、皆さん本当に元気に働いています。そして、そのことが行政を進める大きな力となっているのでございます。前々から私たちの仕事は「町民の幸せのためにある」と申し上げてまいりましたが、その「町民の幸せ」とは、ひとつは「町民の皆さんが健康で元気に働ける環境をつくること」ということができると思っています。

この「市民の皆さんが健康で元気に働ける環境をつくる」にはどうすればいいのかを皆さんに考えていただきたいの  
であります。今年ノーベル化学賞を受賞した「吉野<sup>よしの</sup> 彰<sup>あきら</sup>」  
さん。日本人としては 27 人目、化学賞では 8 人目の受賞  
になります。今では、誰でもパソコンを気軽に持ち歩き、い  
つでもポケットにスマートフォンを入れておけるのは小型  
で何度でも充電ができるリチウムイオン電池があるおかげ  
でございます。その小型で軽量のリチウムイオン電池を発  
明したのが吉野さんであり、スマホなど情報通信社会の発展  
と電気自動車の普及を可能にしたとともに太陽光発電など  
再生可能エネルギーの導入拡大にも貢献したとしてノーベ  
ル化学賞が贈られたものであります。しかし、吉野さんは  
初めから新型電池の開発をめざしたわけではないそうです。

ポリアセチレンという導電性高分子物質を使った新しい  
研究をしていたところ、「新しい電池の負極材料に使える」  
と判断して、これに適した別の正極材料を探がしたり、また、  
ポリアセチレンも違う炭素系の材料に置き換えるなどして、  
何度も何度も試行錯誤を繰り返したそうです。

化学反応から爆発するという危険な状況になったことも一度や二度ではなかったと云うことでありますが、でも、吉野さんは、あきらめずに研究を続け、現在のパソコンやスマートフォン の普及はもちろん、充電できるあの素晴らしい「リチウムイオン電池」を発明し、かつ、この電池が将来、再生可能エネルギー利用に大きな役割を果たすべく、人類にとって大きな貢献であるとして認められたものであります。

この諦めないでやりぬくということ。今年一年を振り返って、ぜひ、皆さんには、それぞれ自分の仕事の中で「町民の皆さんがもっと明るく元気に働けるようにするために、自分は何ができるか…」「どうすればいいか…」等々について決して諦めずに考え、試行錯誤を続けて見つけていただきたいと願っています。

最後に、私は、新しい年を、大きな期待をこめ、希望を持って迎えようと思っています。皆さんも、来たる新しい年に向かって、しっかりと鋭気を養っていただきたいと願っております。

あらためて今年一年のご支援ご協力に心から感謝を申し上げ、仕事納めの訓示といたします。 ありがとうございます  
した。